

特別講演

第2日 12月6日 9:00~10:30
第1会場（センチュリーホール）

「新生児看護の歩みと展望」

講師：広島大学大学院保健学研究科 横尾 京子
司会：名古屋市立大学病院看護部 平岡 翠

「新生児看護の歩みと展望」

広島大学大学院保健学研究科
横尾 京子

日本新生児看護学会は今年で15回目を迎えるが、本会の前身は1991年に発足した日本新生児看護研究会である。1991年ころといえば、新生児医療の地域化・システム化の進展によって日本各地にNICUが設置され、NICU看護の専門性が求められるようになってきたころである。当時、NICUでの実践結果はさまざまな研究会や学会で報告されていたが、「報告はしたものの、反応が返ってこない」という物足りなさを感じる事が多く、看護上の共通の課題を討論する場へのニーズが高まっていた。そのような時期に、日本新生児連絡会および第36回日本未熟児新生児学会長（多田裕先生）の支援を受け、第1回新生児看護サテライトミーティングを開催することができた。その終了後、施設代表者会議を開催し、日本新生児看護研究会を発足させることになった。

代表者会議では、研究会の方向性として次の4点が挙げられた：①学会に発展させる、②会員はNICU看護者にとどめず、他領域・他職種の加入を促進し、広い視野で課題を検討する、③日本未熟児新生児学会と連携し、相互理解を深める、未熟児・新生児看護の質向上と専門化に貢献する、④未熟児・新生児看護の質向上と専門化に貢献する。これら4点は、表にも示したように、この15年間の歩みのなかで、実現できたものと思う。

「学会に発展させる」：1997年に沖縄で開催された第7回日本新生児看護研究会総会において、会員数および学術集会参加者の安定・上昇化、および、新生児看護の専門性確保のために、日本新生児看護学会として発展的に改組することが承認された。現在、会員数は730名（会費納入会員）で、学術集会参加は800人を超えるまでに成長してきた。

「会員の資格」：新生児看護は、専門的な知識のみならず、当事者体験によって発展するという認識にたち、2002年に親（家族）を含むことになった。このことによって、学術集会におけるシンポジストや講演、認定看護師教育課程の講師等を通して、当事者体験に学ぶことがより可能となった。

「未熟児新生児学会との連携」：新生児医療や看護の発展には、共通の課題を検討する場が必要という認識に立ち、新生児看護学会と未熟児新生児学会は近接する会場で同時期に行うことが当初の約束であった。しかしながら、合同シンポジウムを定期的に組めるようになってきたのは、2002年に大阪で開催された第12回からである。新生児医療や看護は、「日常的な営み」に対してより尽力しなければ、その向上を果たすことができないということが認識されたものと解釈したい。

「新生児看護の質向上」：新生児（NICU）看護は、新生児の救命・成長発達を助けるためのケア（DC）・ファミリーケアを骨子として、専門知識・当事者体験・倫理性・法的側面から妥当性が保証された方法を実行していく必要がある。このためには、調査・研究による看護技術の妥当性の検証や標準化が必要であり、学会としての重要な課題である。

「新生児看護の専門化」：新生児集中ケア認定看護師がすでに誕生しているが、彼らの臨床での活用

基盤を標準化すること、また、新生児看護を生育医療の中で包括的に捉えると、集中ケア以外の領域についても分野認定申請の必要があろう。また、新生児看護における専門看護師や研究者としての能力を備えた人材育成にも、学会は尽力する必要があると考える。

新生児看護は、チーム医療として成り立っている。しかし、親（家族）がこのチームの一員という認識は薄い。新生児と親（家族）に開かれた NICU であるには、親(家族)をチームの一員として位置づけ、協働できる環境や体制づくりが、今後の大きな課題であると考えます。親(家族)がもつ価値観を尊重し、彼らが本来もつ力や可能性を信頼し、協働することができれば、そのこと自体から新生児看護の世界が変わってくると思う。

表. 日本新生児看護学会学術集会のテーマと学会としての取り組み

	開催年 場 所	教育・特別講演	シンポジウム等	学会としての取り組み
1	1991年 東京			
2	1992年 大阪		NICUにおける看護上の課題	
3	1993年 札幌		NICU長期入院児の現状と課題	
4	1994年 東京	看護における倫理的意思決定	NICU長期入院児のケア -子どもたちの環境を考える	・認定看護師領域認定申請準備 ・DCの普及に着手
5	1995年 神戸	NICUの防災対策を考える -阪神・淡路大震災を経験して	NICUにおけるファミリーケア を考える	
6	1996年 静岡	看護実践におけるIC	看護におけるフォローアップ	
7	1997年 沖縄	米国における新生児看護教育	NICUケア実践者の教育	・学会への改組が承認
8	1998年 横浜	NICU看護、その次世紀への課題	NICU看護の質向上：赤ちゃん にやさしい看護とは	
9	1999年 岡山	赤ちゃん和家人の始まりを支える	母乳ってすばらしい！NICUで の母乳育児を考える	
10	2000年 新潟	・DCの実践への導入 ・NICU感染予防対策-過剰？	NICU卒業後の子育て支援の現 状と課題	・認定看護師分野特定の申請
11	2001年 横浜	・NICUに院内感染対策 ・母の涙	NICU入院中からの育児支援	・新生児看護技術標準化検討 委員会発足 ・新生児集中ケア分野特定 ・日本看護系学会協議会入会
12	2002年 大阪	・新生児行動評価の実際 ・低出生体重児を持つ親の否定的 感情からの脱出契機	合同：安らぎといつくしみの NICUを求めて 交流集会：重症障害新生児のガ イドラインと研究班との意見 交換	・会員資格に親(家族)とすること が承認 ・新生児看護技術標準化のため の調査開始
13	2003年 群馬	・早産産婦の乳汁分泌の開始と 確立 ・障害をもつ子どもと生きるた いこと	合同：重症障害新生児を持つ家 族とのコミュニケーション	・新生児看護技術標準化厚労科 研補助金による研究 ・広島県看護協会に認定看護師 教育機関の依頼 ・社会保険診療報酬に関する 要望申請
14	2004年 横浜	・臨床技術に光をあてて -技能を技術へ ・NICUにおける母乳育児支援 の実際	合同：新生児医療とくらしをさ さえるネットワーク ワークショップ：気管内チュー ブの固定を考えよう	・厚労科研補助金による研究 ・新生児集中ケア認定看護師 教育課程開講 ・診療報酬看護技術評価会議